

平成30年度「不登校に関する研修会」講義記録

【第5回】平成30年11月19日（月）洲本市文化体育館

テーマ： 「学級における絆づくり
～グループアプローチによる人間関係づくり～」
講師： 長谷川 重和（神戸親和女子大学 教授）

1 はじめに

(1) 県立やまびこの郷の役割

(2) 神戸親和女子大学におけるメンタルフレンドの心得

- ・ ネットワークづくり（子ども同士、スタッフと子どもの関係をつくる）
- ・ 課題把握力（個人・グループが抱える課題を把握する）
- ・ アレンジ力（目の前の子どもたちに合わせて活動をアレンジする）
- ・ 対応力（個や集団に応じた対応をする）

(3) 不登校児童生徒への支援

- ・ 過去の状況だけを支援の判断材料にするのではなく、現状を把握して将来に向けて「今できることは何か」を考えていくことが大切 (here and now)。
- ・ 教師は、個と集団を両輪で動かし、個の関係を集団の関係に持っていくことが大事。

2 演習

(1) 「忙しいですよね」

2人組になり、一方が「忙しいですよね」と他方に話しかけ、「何がそんなに忙しいのですか」と返したり、「本当に忙しいですよね」と共感したりしながら会話を続ける。

※ 他者を信頼して、自分の思いをオープンマインドで伝えることが大切。

(2) 「フリーウォーク」

1回目は無言で部屋の中を歩き回る。2回目は笑顔で歩き回る。3回目は近くにきた人と「〇〇から来ました□□です」と挨拶しながら歩き、5人と挨拶できたら自席に戻る。その後、それぞれの印象について意見交換する。

※ 自己紹介をするだけでも、学級の様子が変わっていく。また、教師が集団の様子を把握することもできる。

(3) 「魂で（マインド）握手」

まず、1から3の数を中心の中で決める。次に無言で歩き回り、近くにきた人と握手を交わし、それぞれが選んだ数だけ相手の手を握る（相手の様子を伺いながら数字を変えてもよい）。相手をかえながら繰り返し、同じ数の人と2人出会えたら自席に戻る。

※ 「目と目を合わせた方が数を合わせやすい」など、フィードバックや振り返りをしながら活動の意図に気づかせることが大切。

※ ノンバーバルでの活動には意味がある。相手から受ける印象は、言葉だけが全てではない。表情など体全体を使って自分の思いを伝えることが大切。

(4) 「スクイグルと鉛筆対談」

2人組になり、一方が、紙に描かれた曖昧な図に線を描き加えて何かの形にする。次に、他方が描かれた絵が何であるかを想像し、さらに線を描き加える。それを繰り返しながら絵を完成させる（その間は無言）。絵が完成したところで、二人で振り返りをする。

※ 共感し合うことが大事だが、お互いの意見が違ったり自分の意見を主張し合ったりするペアも認める。

※ 話すことが苦手な子には、筆談で振り返る方法もある。

(5) 「アドジャンジャンケン」

4人組になり、質問に答える順番を決める。「アドジャン」というかけ声で、全員が0から5までの数を指で出す。出された数を合計し、ワークシートにある同じ番号の質問に全員が答える。

※ 考えすぎずにテンポよく行い、できるだけ多くの質問に答える。

※ 回答者に質問することにより、友だち関係がより深まっていく。

※ 学級では「アドジャン係」を決めて取り組ませてもよい。

(6) 「やってみよう」

ワークシートに書かれた6つの質問に筆答する。4人組になり、机上にワークシートを並べて全員が読み合う（その間は無言）。それぞれが、気になる（もっと聞きたい）回答を指差し、順番に質問する。

※ 聞き手は、表情や声に出しながら肯定的な反応をすることが大切。そのことをファシリテーターはしっかりと伝える。

※ アドジャンジャンケンよりも一人のことをさらに深く知ることができる。

(7) ファシリテーター秘伝書（心得）

- ・ 子どもが何でも自由に話せる、心地よく安心できる環境をつくる。
- ・ アイスブレイキングやエクササイズは、実施する時期をよく考え、学級の実態に即したものをを行う。
- ・ 活動のねらいをもって行い、ねらいについて子どもたちに伝える。

3 終わりに

- ・ 「大事なことは何か」がブレないように、活動のねらいを明確にして、計画的に取り組んでほしい。その際、目の前の子どもたちを主眼に置き、状況に応じてアレンジする必要がある。
- ・ 研修等でロールプレイを取り入れることも効果的である。